

ながの
植物防疫

一般社団法人 長野県植物防疫協会

〒380-0837
 長野市大字南長野字幅下 667-6
 長野県土木センター内
 電話 026-235-3510
 F A X 026-235-3583



新年を迎えて

一般社団法人長野県植物防疫協会 会長 太田恒善

明けましておめでとうございます。
 皆様には輝かしい新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げますとともに、当協会の事業推進にご理解・ご協力を賜っておりますことに厚く御礼申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルスの感染拡大により医療の現場だけでなく、近年好調が続いていたインバウンドや農林水産物輸出など様々な産業に深刻な影響がでました。一日も早いワクチンや治療薬の開発により、以前の平穏な社会に戻ることを祈るばかりです。

さて、国連食糧農業機関（FAO）によると世界の食糧の8割が植物由来であり、その2～4割が病害虫の被害により失われているとしています。開発途上国における飢餓・貧困などの解消のためには、病害虫の新たな地域へのまん延を防ぎ食糧の確保を図ることが重要として、2020年を「国際植物防疫年」と決めました。我が国においても、関係機関や農薬メーカーなどにより植物防疫の重要性が広く認識されるよう、様々な広報活動等に取り組まれました。

コロナウイルスにより冷え込んだ人・物流はいずれ回復していくことと思われませんが、国際化が進めば、本県にも侵入が見られたたツマジロクサヨトウ、テンサイシストセンチュウなどのように、新たな侵入病害虫に対する警戒や対策が課題となると思われます。当協会としましても、侵入病害虫を始め薬剤抵抗性病害虫などに対する薬効試験や農薬展示ほ等、引き続き植物防疫事業への取り組みを一層充実して参ります。

結びに、関係各位の益々のご健勝と長野県農業の発展をご祈念申し上げますとともに、当協会へのご支援・ご協力をお願い申し上げ、新年のごあいさつといたします。



新年あいさつ

長野県農業試験場長 塩川正則

新年明けましておめでとうございます。
 皆様におかれましては健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃より農業関係試験場の研究推進にご理解をいただいていることに厚くお礼申し上げます。

昨年は新型コロナウイルス感染症拡大により、外国人技能実習生が来日でできず農業の人手不足が課題になりました。また、イベントの縮小により花などが販売低迷するなど、農業も大きな影響を受けた年でした。今年も感染拡大すると予想され、影響の広がりが懸念されます。

農業関係試験場では、農業の人手不足に対応する研究を進めており、AI・IoTなどロボット技術を取り入れたスマート農業の実証や水田畦畔無線操縦草刈り機の開発と実用化、レタス収穫機の開発等を進めています。コロナウイルス感染症拡大を受けてより早期に研究成果を現場で使っていただくよう研究員一同取り組んでいます。また、ぶどう新品種「クイーンルージュ®」の高品質安定生産技術など有利販売が見込める技術も開発しています。今後とも皆様のご期待に応える研究に取り組んでいきますので、引き続きご理解とご協力をお願いします。

結びに、今年も社会変化の大きい年になると予想されますが、(一社)長野県植物防疫協会と皆様方のご多幸を祈念申し上げ、年頭の挨拶といたします。

目次	
新年あいさつ	1
令和2年の病害虫発生を振り返って	2
スマート農業の取組と展望について	3
話題の農薬「カナメフロアブル」	5
植防短信	6
地域情報	6
協会だより	7

令和2年の 病害虫発生を振り返って

病害虫防除所

1 水 稻

葉いもち病は、7月上旬に中山間地等で多発ほ場が確認され、その後、平地でも発生ほ場が増加した。葉いもち感染好適条件の出現数も平年に比べて多かったため、7月22日に注意報を発出した。7月下旬には、県下全域で連続した降雨があり、いもち病の感染拡大を助長したものと推察される。穂いもち病は、各地で発生が確認され、多発ほ場もみられた。

斑点米カメムシ類は、6月下旬の畦畔すくい取り調査の捕獲頭数、予察灯への誘殺頭数が平年よりも多い傾向がみられたため、7月13日に注意報を発出した。その後、長雨により、一時期捕獲頭数は少なくなったが、8月に入り再び多くなった。斑点米の発生は、一部のほ場で多かった。

令和2年は飛来性の害虫であるセジロウンカ、トビイロウンカ、コブノメイガの発生が平年に比べて多く、南信の一部地域でトビイロウンカによる坪枯れ被害が22年ぶりに発生した。

2 麦 類

コムギうどんこ病の発生が中南信で多かったため、5月19日に中南信地域を対象に地区注意報を発出した。中南信ではその後もうどんこ病が増加し、穂での発病もみられた。また、令和2年は黒節病の発生が多く、発生の目立つほ場があった。

3 果 樹

リンゴ黒星病は、県全体では平年に比べて発生は少なかった。DMI剤耐性菌については、一部の園地で発生が確認されているため、令和3年度も引き続き防除強化対策を実施する。キンモンホソガのフェロモントラップ調査では、6、7月の誘殺数が平年より多く、8月3日北信地域に地区注意報を発出した。寄生葉が多いりんご園が各地でみられた。

ナシ黒星病は、子のう胞子の飛散時期が早く、開花や生育のばらつきが発生し、梅雨期の降雨も多かったことから、平年よりやや多い発生であった。

ブドウ黒とう病は、罹病性の高い品種で多くみられた。べと病や晩腐病は、梅雨明け後から多く発生した。いずれも、梅雨が長く、袋かけ作業の遅れや

適期防除ができなかったことが原因と考えられる。クビアカスカシバは北信地域のフェロモントラップ調査で平年より早く、6月上旬から誘殺数が増加したため、地区注意報を発出して防除を呼びかけた。

モモせん孔細菌病は、春型枝病斑の発生が多く、4月28日全県に注意報を発出した。せん除や薬剤防除の徹底を呼びかけたが、葉や果実に感染が多くなり、減収となった。本年も発生が懸念されることから、防除対策をしっかりとお願いしたい。

チャバネアオカメムシのフェロモントラップ調査では、6月に入り各地の誘殺数が平年より多くなった。果樹園でも飛来が多く確認されたことから6月12日全県に果樹カメムシ類に対する注意を呼びかけた。りんご、なし、ももに被害が散見された。

4 野 菜

果菜類では、梅雨期の長雨により、露地栽培（ジュース用）トマトで輪紋病の発生がみられ、施設栽培のきゅうりやトマトで多湿により灰色かび病や葉かび病の発生がみられた。また、露地栽培きゅうりで炭疽病、褐斑病の発生がみられた。

アブラナ科野菜では、梅雨期の降雨や夏季の天候不順により、軟腐病が各地でみられた。

キャベツでは、軟腐病、株腐病がみられた。

はくさいでは、軟腐病の他、ピシウム腐敗病、黒斑病、黒斑細菌病の発生が多いところがあった。

ブロッコリーでは、夏季の降雨により黒すす病や花蕾腐敗病の発生がみられた。

レタスでは、梅雨期の降雨や夏季の天候不順により、軟腐病、斑点細菌病、腐敗病、すそ枯病の発生がみられた。

アスパラガスでは、梅雨期の降雨や夏季の天候不順により、茎枯病や斑点病の発生が目立つところがあった。また、一部地域の施設栽培で通風不良により褐斑病の発生がみられた。

虫害では、5月以降、高温傾向が続いたため、トマト・きゅうりなどの果菜類やアスパラガスなどでアザミウマ類の寄生が目立つところがあった。また、アブラナ科野菜などでは、栽培期間を通してコナガ、ウワバ類等チョウ目害虫の被害がみられた。

なお、飼料用とうもろこし等を食害する、侵入警戒害虫のツマジロクサヨトウが、フェロモントラップに初めて誘殺され、7月28日に特殊報を発出した。また、中信地域のスイートコーンで幼虫の食害が確認され、9月24日に地区報を発出した。

スマート農業の取組と展望について

農業技術課 先端技術広域担当 井ノ口明義
花岡 和徳

最近、農業生産の現場では「スマート農業」の導入が話題となっています。そこで、「スマート農業」についての国や県の取組、具体的な技術の導入事例等についてご紹介します。

まず「スマート農業」とはどんな農業でしょうか。一言でいうと「ロボット技術やICTを活用して、省力化・精密化や高品質生産を実現する新しい農業」です。

農林水産省によるスマート農業の定義

超省力・大規模生産を実現	トラクターなど農業機械の自動走行の実現により、規模限界を打破
作業の能力を最大限に発揮	センシング技術や過去のデータを活用したきめ細かな栽培(精密農業)により、従来にない多収・高品質生産を実現
きつい作業、危険作業から解放	収穫時の積み下ろしなど重労働をアシストスーツにより軽労化、負担の大きな畦畔等の除草作業を自動化
誰もが取り組みやすい農業を実現	農機の運転アシスト装置、栽培ノウハウのデータ化などにより、経験の少ない労働者でも対処可能な環境を実現
消費者・実需者に安心と信頼を提供	生産情報のクラウド化による提供などにより、産地と消費者・実需者を直結

国は「スマート農業」の実現に向け、平成25年から研究会を設置し、議論をスタートしました。令和元年6月には、2025年までに農業のほぼすべての担い手がデータを活用した農業を行う姿をめざした「農業新技術の現場実装推進プログラム」を公表しています。令和2年10月には「スマート農業推進パッケージ」を策定して、スマート農業の加速化に取り組んでいます。また、生産現場に先端技術を導入・実証することでスマート農業の普及を加速化させるための「スマート農業実証プロジェクト」を全国148か所で展開しています。

1 長野県の取組

長野県では、これまでに「水田畦畔管理機」、「レタス収穫機」、「ハンディ型果実熟度測定器」などについて、民間企業、大学などと連携して開発に取り組むとともに、ドローンについては平成30年から中山間地域での活用のための実証事業を行っています。

令和元年度からは、スマート農業技術の地域への実装加速化のために「スマート農業機械のお試し導入」事業を始めています。この事業は、水田センサーや施設園芸ほ場モニタリングシステム、牛群管理システムなどのスマート農業機械を県が購入して、無償で農業者に貸し出し、一定期間借りていただいてその効果を体験していただくものです。使ってみて農作物の管理にとっても役立ったとの意見や、一方では、現場で活用するためにはさらに改良が必要との意見もありました。スマートフォンで水位・水温がわかる「水田センサー」を県下の農家に利用いただきました。また、農業農村支援センター等にタブレット端末を配備するなど、スマート農業技術の指導体制整備にも取り組んでいます。県のスマート農業の推進体制については、本年度から先端技術担当の広域普及指導員が農業試験場と野菜花き試験場に配置され、中核的農業者のスマート農業技術導入への支援、スマート農業技術情報の提供、他県の情報収集等を進めています。

2 スマート農業実証プロジェクト

県農業試験場では伊那市、信州大学などとのコンソーシアムにより、水稲など土地利用型作物の集落営農での栽培における、スマート農業技術の一貫体系での実証を、国の「スマート農業実証プロジェクト」を活用して行っています。伊那市の集落営農法人「(農) 田原」において、ドローン、直進アシスト田植機、自動給水栓、自動運転トラクター、リモコン草刈機、食味・収量コンバインなどを導入して、水稲や麦の生産を効率化して生み出された労力で園芸作物を栽培し、所得の向上を目指しています。

令和元年度の実証では、自動運転トラクターと直進アシスト付き有人トラクターの協調（1人で2台のトラクターを操作）による耕起作業の作業時間は慣行（1人で1台のトラクターを操作）の約60%に短縮されました。直進アシスト田植え技術では、直線作業中の後方確認（植え付け姿勢や苗の補給タイミング）ができ、作業負担が減ることが、大きなメリットとの評価が得られました。マルチローター（ドローン）による雑草・害虫防除技術の検討では、豆つぶ剤（自己拡散性：処理量250 g/10 a）を散布したところ、圃場外ド

リフトが無く、除草効果も安定しており、慣行区（背負い動力散布機による地上防除）対比の実作業時間で60%削減できました。ラジコン畦畔草刈り機による畦畔管理の検討では、クボタ ARC-500による除草作業は、慣行草刈り作業体系より作業時間が38%削減できました。

実証プロジェクトにおけるスマート農業技術の情報提供を図るため、令和元年度に3回、2年度に2回開催した実演会には、毎回100~150名ほどの参加者があり、関心の高さが伺えました。

園芸作物関係では、令和2年度に「中山間地域におけるキャベツ収穫機械化体系の実証」をテーマに、(一社)長野県農協地域開発機構と協力しながらキャベツ収穫機導入による労働生産性の向上について、国の「スマート農業実証プロジェクト（労働力不足解消）」を活用して試験を行いました。併せて、農業大学校、農業高校の学生を対象としたスマート農業技術の現地実習も開催しました。現地法人におけるキャベツ収穫機の評価は高く、作付け方法の変更などさらなる労働生産性向上に向けた取り組みが提案されました。学生達も最新のスマート農業機械に触れる機会ができ、理解を深めることができました。

3 栽培ノウハウのデータ化

施設園芸については県のお試し事業で、環境モニタリングシステム「みどりクラウド」を導入した生産者のハウスを会場に検討会が開催され、環境モニタリングに興味を持つ生産者やJA技術員などが参加しました。環境モニタリングの仕組みや注意点等について説明があり、導入した生産者からは次年度から環境モニタリングシステムを導入し、収量・品質の向上を図りたいとのコメントがありました。今後、導入が進んでいくものと思われれます。

以上のように、スマート農業技術は徐々に身近なものとなってきていますが機器類は高額なものが多いため、「便利だけ」での導入は経営を圧迫しかねません。各経営体において、まず「自分の経営で何を改善することが必要か？」をスタートラインとし、スマート農業技術を「経営改善に必要なもの」としてスマートに選択導入していくことが重要です。



省力化と労力確保・経営の見える化・データに基づく栽培管理

新たな雇用創出 (非熟練者も可)	園芸品目(ネギ等) の拡充と収益性向上	米の高品質化と 安定収量確保
-----------------------------	--------------------------------	---------------------------

中山間地域におけるスマート農業技術の一貫体系の導入



農業大学校の学生を対象とした現地実習



環境モニタリングシステム現地検討会の様子

話題の農薬



住友化学株式会社 アグロ事業部 営業部
東京営業所 木下耕輔

◆はじめに

カナメ®フロアブルは住友化学によって開発された新規殺菌成分「インピルフルキサム」を含有する新規殺菌剤です。2014年より一般社団法人日本植物防疫協会を通じて果樹、野菜等の各種病害に対する委託試験を開始し、2019年9月に農薬登録を取得しました。

◆カナメフロアブルの概要

【製品名】カナメ®フロアブル

【登録番号】第24265号

【有効成分】インピルフルキサム (ISO名) 37.0%
作用機作 FRACコード; 7
コハク酸脱水素酵素阻害剤 (SDHI)

【安全性】医薬用外劇物



- 使用前にはラベルをよく読んでください
- ラベルの記載以外には使用しないでください
- 小児の手の届く所には置かないでください
- 空容器は圃場等には放置せず適切に処理してください

◆カナメフロアブルの特長

- ・幅広い病害に対し優れた防除効果を示します。中でも担子菌（リゾクトニア病害、白絹病、さび病、赤星病等）やリンゴ黒星病やナシ黒星病等に対し高い効果を示します。
- ・優れた予防効果を示し、浸達性、浸透移行性、耐雨性を有します。
- ・多くの作物で収穫前日まで使用が可能です。

◆りんご・なしでの利用場面

- ・りんご；黒星病・うどんこ病に高い効果があり、開花期前後の防除薬剤として適していません。
- ・なし；黒星病・赤星病に効果が高く、開花期の防除薬剤として適しています。
12月9日付で適用病害に「輪紋病」が追加されました（下記参照）。果実肥大期の防除薬剤としてもおすすめです。

2020年12月9日現在の登録内容／抜粋 ※1

太字は、2020年12月9日付 適用拡大(適用病害虫名・希釈倍数の追加)

作物名 ※2	適用病害虫名	希釈倍数 (倍)	使用液量 /使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法
りんご	うどんこ病 すず点病 すず斑病 モニア病 褐斑病 黒星病 黒点病 斑点落葉病	4000	200～700L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布
なし	黒星病 赤星病	4000～8000	200～700L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布
	黒斑病 輪紋病	4000				
もも	灰星病	4000～8000	200～700L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布
	黒星病 うどんこ病	4000				
ネクタリン	灰星病	4000～8000	200～700L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布
ぶどう	灰色かび病	4000～8000	200～700L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布
	うどんこ病 さび病 褐斑病 黒とう病	4000				
かき	うどんこ病	4000	200～700L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布
ねぎ	さび病	4000～8000	100～300L/10a	収穫前日まで	4回以内	散布
	黒斑病	4000				
	白絹病	4000～8000				
	黒腐菌核病	4000				株元散布
きく	白さび病	4000～8000	100～300L/10a	発病初期	3回以内	散布

※1 詳細な登録内容および使用上の注意事項などについては、製品に貼付されているラベルをご参照ください。

※2 上表の他、麦類 豆類(種実、但し、らっかせいを除く) ばれいしょ たまねぎ 豆類(未成熟) かんきつ に登録があります。

植防短信

長野県農業管理指導士認定事業の実施について

県では農薬使用、農薬販売等に携わる者（農薬取扱者）に対して、農薬に関する専門的な知識を習得し、農薬取扱者の資質向上と農薬の安全使用の推進を図ることを目的に、毎年、長野県農業管理指導士認定事業として養成研修（認定試験含む。）及び更新研修を実施しています。

また、平成25年4月に改定された「住宅地等における農薬使用について」通知（以下「住宅地通知」という。）では、県や市町村等の地方公共団体が管理する公共施設等における植栽の病害虫防除業務等を実施するにあたり、植栽管理業務委託時の仕様書への遵守事項の規定や、適正使用に関する資格の入札要件化、研修会への定期的な参加などの具体的な取組事例が示されています。

この通知を受け、県では、毎年6月に開催する農薬適正使用研修会（例年は県下4会場での集合形式であったが、本年は書面研修による開催）と今回実施する長野県農業管理指導士更新研修会を、住宅地通知に規定する定期的な参加を要する研修会と位置付けています。

令和2年度の研修会につきましては次のとおりです。

○長野県農業管理指導士養成研修会及び認定試験

県下2会場での開催となります。どちらかの会場に申してください。

1 期日及び場所

【長野会場】

- ・令和3年2月15日（月）～16日（火）
- ・長野県土地改良会館 本館4階大会議室
（長野市大字南長野県町452-1）

【塩尻会場】

- ・令和3年2月17日（水）～18日（木）
- ・長野県総合教育センター講堂
（塩尻市大字片丘南唐沢6342-4）

2 対象者

長野県内に住所または勤務先を有する満20歳以上の農薬取扱者等で、現に農薬取扱業務に従事している者。

○長野県農業管理指導士更新研修会（住宅地通知指定研修）

本年は新型コロナウイルスの感染防止の観点から一堂に会する従来の開催形態を取り止め、書面形式による開催とします。

1 開催方式

書面形式による開催。

長野県公式HPに令和3年2月15日（月）～19日（金）の間、研修資料を掲載します。

必ず掲載期間中に受講の上、関係書類の提出をお願いします。

2 対象者

- (1) 農薬管理指導士認定期間満了者
- (2) 農薬管理指導士認定試験免除者
- (3) 植栽等の防除業者等

この研修会の概要および関係書類の提出方法等の詳細は長野県公式HPに掲載しておりますのでご覧ください。

(<https://www.pref.nagano.lg.jp/nogi/sangyo/nogyo/shidoshi.html>) (農政部 農業技術課)

りんご、なし、ももの海外輸出の取組みについて

長野県は、信州農産物の輸出拡大を進めています。東南アジアを中心に需要の高い県産くだもの（りんご・なし・ももなど）が増えていますが、相手国ごとの輸出条件（植物検疫や残留農薬基準）に的確に対応していかなければなりません。病害虫防除所では、関係機関とともに輸出生果実の防除指導等を行っています。

輸出検査で発見される害虫として多いのがカイガラムシです。果柄部によく寄生していて、体長が小さいので見逃しやすいです。他には、シンクイムシなどのチョウ目幼虫、アザミウマ、ダニなどがあります。カイガラムシやナシヒメシンクイなどが検査で見つかり、自分たちだけでなく他の産地も輸出できなくなる場合がありますので、病害虫防除や選果作業の徹底をお願いしています。

信州のおいしい農産物が多く輸出され、海外の多くの方に味わっていただきたいと願って取り組んでいます。

【お知らせ】

毎年2月に開催しています長野県病害虫防除研修会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため本年度は中止することにしました。

(病害虫防除所 小林富雄)

地域情報

トルコギキョウ立枯病に対する 土壌還元消毒の取組

松本地域のトルコギキョウは、短日処理による抑制作型も増えてきており、栽培が盛んに行われています。近年、県下ではトルコギキョウ立枯病の発生が問題となっており、昨年には当管内でも春定植の作型で、初期段階に立枯病が多発したほ場がありました。そこで、植え直しによる抑制作型に切替えるため、専門技術員の協力を得て「米ぬか」と「低濃度エタノール」を使った試験区を設置して土壌還元



トルコギキョウ立枯病対策研修会

消毒に取り組みました。処理は6月上旬から20日間程度行い7月中旬に定植しました。結果、両試験区とも前作では立枯病が多発したにもかかわらず、処理後では立枯病

の発生がほとんどなく、効果が確認できました。また、10月7日に開催された県園振協（美しい信州の花推進部会）主催の「トルコギキョウ立枯病対策研修会」の現地検討の会場にもなり、成果の共有もできました。今後も防除手段の一つとして推進したいと思えます。

（松本農業農村支援センター 荒井政昭）

山ウドそうか病に対する耕種的な取組み

北アルプス農業農村支援センターでは、管内で栽培されている山ウドの生産振興に取り組んでいます。

小谷村にある山菜加工場では、地元で収穫された山ウドを利用した漬物を生産販売していますが、生産者の減少や山ウドの収穫時期が水稻の田植え時期と重なるなどの理由から、その収穫量は年々減少傾向にあります。

そのため、平成27年から村やJAを中心として、小谷村のみならず村外農家に対する生産の呼びかけや圃場巡回・栽培試験圃場の設置など、生産量を増やす取り組みを行っています。その活動の中で、葉の縮れや茎の歪みなどの症状がみ



られる山ウド「そうか病」の発生が確認されました。この「そうか病」は、罹病した残渣等から翌春の茎葉に伝染している可能性が高いと考えられ、当支援センターでは、病徴の見られた茎の早期除去や積雪前（11月頃）に枯死した茎葉残渣を圃場外へ持ち出すなど、化学的防除に頼らない耕種的な被害軽減方法を検討しており、これまでの調査では、処理をすることによって翌春の罹病率を半分程度まで軽減できることがわかりました。

今後も小谷村の特産である山ウドの漬物を守っていただけるよう、課題解決に向けた支援をしていきます。
（北アルプス農業農村支援センター 木下琢麻）

発生予察用調査資材の斡旋について

効率的かつ根拠に基づいた防除やIPMの実践などには、病害虫の発生を予測する情報等が欠かせません。当協会では、（一社）日本植物防疫協会が取り扱う発生予察用調査資材を斡旋していますので、活用して下さい。

次ページに示す資材を提供していますが、それぞれの製品は防除目的に使用しないことが前提です。購入希望の方は、本協会のホームページ（<http://www.nagano-ppa.ne.jp/>）から申込用紙を印刷し、必要事項をご記入の上、本協会までFAXで申込み下さい。

【行事】

- 11月11日 農作物病害虫・雑草防除基準編成会議（長野市）
- 11月11日 「ながの植物防疫」編集委員会（長野市）
- 12月3日 朝日税理士法人会計指導（長野市）
- 12月15日 2年度農薬等普及展示事業成績検討会（長野市）
- 12月18日 病害虫発生予察事業成績検討会（安曇野市）

「ながの植物防疫」はホームページでもご覧になれます。URLは<http://www.nagano-ppa.jp/>です。

協会だより

令和3年版

「長野県農作物病害虫・雑草防除基準」
発行のお知らせ

★★★ 安全・確実な防除のための1冊 ★★★

病害虫・雑草防除の基本事項が集約されています。農薬の効果的な使い方、安全を確保する正しい使い方、総合的病害虫雑草管理（IPM）など環境にやさしい農業活動の実践のため、病害虫・雑草防除基準を活用しましょう。

令和3年2月上旬発行予定

価格：800円（消費税込み、送料別途）

お問い合わせ・ご注文は、
（一社）長野県植物防疫協会事務局 電話 026 (235) 3510、FAX 026 (235) 3583、または最寄りの農業農村支援センターまでお願いします。

一般社団法人 長野県植物防疫協会 行
FAX 026-235-3583

[本申し込み用紙は、コピーしてご利用下さい。]

発生予察用調査資材申込書

(社) 日本植物防疫協会の発生予察用調査資材申込規約(下記)に従い、本調査資材を防除用には使用しないことをここに明確にし、下記のとおり申込いたします。

1. 当協会では、発生予察(以下、調査研究を含む)に用い防除目的には使用しないことを明確にされた場合に限り発生予察用調査資材(以下、調査資材)の申込を受け付けます。
2. 当協会へ申し込む方は、その調査資材を使用する方が防除目的に使用しないよう十分に指導することとします。
3. 当協会で取り扱った調査資材について、防除目的に使用した場合は、その責任は申込者と使用者の責任とします。
4. 注文の間違いによるフェロモンの返品はおことわりいたします。

(必ずご記入下さい) 申込者氏名 _____ 年 月 日

(消費税別・送料サービス)

品目(対象害虫名)	社名	備考	本体価格	数量	品目(社名)・内容		本体価格	数量	色指定		
ニカメイガ用	サンケイ化学	12個	10,000円		茶	チャノココクモンハマキ用	住友化学	12個	7,700円	—	
コブノメイガ用	サンケイ化学	12個	10,000円		茶		信越化学工業	12個	7,500円	—	
アカスジカスミカメ用	アース製薬	12個	7,500円		茶	チャハマキ用	住友化学	12個	7,700円	—	
アカヒゲホソミドリカスミカメ用	信越化学工業	12本	7,500円		茶		信越化学工業	12個	7,500円	—	
アワノメイガ用	サンケイ化学	12個	10,000円		茶	チャノホソガ用	サンケイ化学	12個	12,500円	—	
フタオビコヤガ用	サンケイ化学	12個	10,000円		茶	チャドクガ用	サンケイ化学	2個	10,000円	—	
イネヨトウ用	サンケイ化学	12個	10,000円		粘	住化式粘着トラップ(住友化学)	セット(屋根1・粘着板12)	6台	4,300円	—	
マメシクイガ用	信越化学工業	12個	7,500円		粘		屋根のみ	6台	3,600円	—	
ハスモンヨトウ用	住友化学	8個	11,800円		粘		粘着板	12枚	3,200円	—	
シロイチモジヨトウ用	サンケイ化学	12個	10,000円		粘	SEトラップ(サンケイ化学)	セット(屋根1・粘着板12)	6台	3,800円	白・緑	
ヨトウガ用	サンケイ化学	12個	10,000円		粘		屋根のみ	6台	3,600円	—	
オオタバコガ用	サンケイ化学	12個	10,000円		粘		粘着板	12枚	3,200円	—	
タバコガ用	サンケイ化学	12個	12,500円		粘	小型粘着板(サンケイ化学)	100枚	26,000円	—		
カブラヤガ用	サンケイ化学	12個	10,000円		粘		アカヒゲ・アカスジカスミカメ用トラップ(アース製薬)	粘着ネット	6枚	4,950円	—
タマナヤガ用	サンケイ化学	12個	10,000円		粘		粘着ネット用フレーム	6本	3,300円	—	
タマナギンウワバ用	サンケイ化学	12個	10,000円		乾	ファネルトラップ(サンケイ化学)		1台	4,500円	—	
コナガ用	住友化学	12個	7,700円		乾	住化式乾式トラップ(住友化学)		1台	6,000円	—	
アリモドキゾウムシ用	サンケイ化学	12個	10,000円		乾	AUトラップ(信越化学工業)		1台	10,000円	—	
モモシクイガ用	住友化学	12個(2ヶ月)	10,300円		粘	コガネコール・マダラコール用誘引器(サンケイ化学)		1台	6,800円	黄	
ナシヒメシクイ用	サンケイ化学	12個	10,000円		粘			1台	6,800円	白	
リンゴココクモンハマキ用	住友化学	12個	7,700円		粘	ITシート(サンケイ化学) 10巻入り		1箱	14,100円	黄	
リンゴモンハマキ用	信越化学工業	12個	7,500円		粘	虫取り君(サンケイ化学) 10枚×10袋		1箱	15,000円	黄	
コスカシバ用	信越化学工業	12個	7,500円		粘	コナダニ見張番(サンケイ化学)	誘引シート・トラップ 30枚×10個		3,500円		
ヒメコスカシバ用	信越化学工業	12個	7,500円		粘		交換用誘引シート	30枚	2,500円		
モモハモグリガ用	サンケイ化学	12個	10,000円		納	住所・TEL: 〒 _____ TEL() _____					
キンモンホソガ用	サンケイ化学	12個	10,000円		品	名称:					
モノゴマダラノメイガ用	サンケイ化学	12個	10,000円		先						
チャバネアオカメムシ用	サンケイ化学	10本	20,000円		先						
スモモヒメシクイ用	信越化学工業	12個	7,500円		請	担当名:	FAX() _____				
ミダレカクモンハマキ用	信越化学工業	12個	7,500円		求	住所・TEL: 〒 _____ TEL() _____					
クビアカスカシバ用	信越化学工業	12個	7,500円		先						
ヒメボクトウ用	信越化学工業	12個	7,500円		求						
カシノナガキクイムシ用	サンケイ化学	2個	16,000円		先	担当名:	FAX() _____				
ナシマルカイガラムシ用セット	サンケイ化学	5個※用粘着板20枚	12,000円		求						
アカマルカイガラムシ用セット	サンケイ化学	5個※用粘着板20枚	12,000円		先						
マメコガネ用	サンケイ化学	コガネコールA	4,800円		求						
シロテンハナムグリ・アシナガコガネ・ヒラタアオコガネ用	サンケイ化学	コガネコールC	4,800円		先						
カミキリ・ゾウムシ・キクイムシ・ハバチ等針葉樹寄生性昆虫用	サンケイ化学	マダラコール	5,000円		求						
スギノアカネトラカミキリ用(アネコール)	サンケイ化学		8,800円		先						
訪花性昆虫(ハナムグリ、ハナカミキリ、ハチ等)	サンケイ化学	アカネコールBA	11,000円		求						

申込数量が多い理由

- ・設置箇所数が多い。 約 _____ 地点
- ・設置期間が長い。 約 _____ か月間
- ・設置場所の地形の変化が著しい。